

錦江に生きている

さんじゆうさんにん目

柴立 正芳さん

(栄町自治会)



真剣な眼差しで作業する正芳さん



このコーナーでは、町内でこれから根を張っていこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。
第33回目は、栄町自治会の柴立正芳さんです。

約束の時間にお店を訪ねると、「カンバン屋さん」のイメージとは違う製作物が目に飛び込んだ。真剣な眼差しで制作に没頭していたのは大根占地区で屋外広告業を親子二代で営む柴立正芳さんだった。

正芳さんは高校を卒業後、福岡の学校でデザインを学び家業を継ぐために帰ってきた。お父さんの下で修業を積んだのですか？と尋ねると「そうです。というか今でも修行中の身です」と笑った。そう謙遜する正芳さんだが、父・昭三郎さんの技術を学びながら、自らはコンピュータカッティングという看板製作の機械化（システム化）を取り入れるなど活躍の場を広げている。そして、遂には屋外広告業の場を飛び出した。

実は正芳さん、昨年の11月に神職になっていた。そう、正芳さんが製作していた物は神事の際に使用する棚だったのだ。現在は田代地区の若宮神社で宮司さんの下、奉職している。なぜ、二足のわらじを？と尋ねると「じいさんが宮司だったんです。昔はそこまで意識しなかったが、現在の宮司さんに『じいさんもやっていた宮司にならないか』と誘われ、これも運命のめぐりあわせだと思ひ宮司になることを決めました。」と話した。

一見、全く繋がりが無いように思えるが、正芳さんには二足のわらじを履くことにした明確な理由があった。「屋外広告の仕事は町内で一軒だけ、宮司さんの数は神社の数に比べて圧倒的に少ない。町内に一軒しかない店を無くすわけにはいかない。宮司のいない神社を出すわけにはいかない。私は、その灯を消したくないんです。」と強い眼差しで話した。正芳さん曰く、このように思えるようになったのも商工会青年部を筆頭にいろいろな先輩や仲間たちと出会い、多くのことを経験したからで、それを地域振興につなげることに、若い世代に引き継ぐことが使命なのだという。

正芳さんの趣味は、読書とソフトボール。ソフトボールは本町と隣の2チームに所属している。が、練習は全くしないとのこと。読書は、最近では神事の際に読む祝詞（のりと）の作文を勉強するため専ら関連書物を読んでいるのだという。『若い経営者の主張大会』で九州大会に出場したこともある正芳さんでも祝詞作文はかなり難しく、勉強を重ねなければ書けないとのことだった。

普段は物静かなイメージのある正芳さんだが、内に秘めた熱い想いは誰にも負けないナイスマイズガイだった。

編集後記

●二月に入り暖かい日と寒い日の差が激しい日が出てきています。気温差が激しいと体調を崩しやすいので気を付けましょう。

●地域づくり・まちづくりということが最近よく言われます。最近では、大きなイベントとして、宿利原地区が公民館長を中心に地域一丸となって「大根やぐらのライトアップ」イベントを開催し、また神川地区も「神中カンバリ隊」のメンバーを中心に「大新年会」を開催し、ともに大成功を収めています。また、それぞれの地域でも大小いろいろなイベントを開催しているのとおもいます。

●2010年七〜一月が過ぎました。正月気分が抜けない方はさすがにいらつしやらないでしょうが、来年の正月を楽しみにしている方はいらつしやるのではないのでしょうか？もしかして私だけ……？お年玉を配る年齢になった今でも「もじかしたら……」などと考えてしまいます。

■発行 錦江町役場
■編集 企画課
〒893-2392
鹿児島県肝属郡錦江町城元963
☎0994-22-3032
FAX 0994-22-1951
■錦江町ホームページアドレス
<http://www.town.kinko.lg.jp>